

平栗 江陵2年 ジュニアオールスター



「自分自身を成長させ、チームのためになるように頑張る」と意気込む江陵高の平栗弥々

バレーボール精鋭52人入り

「自分を成長させたい」

バレーボールの第14回全日本ジュニアオールスタードリームマッチが17、18の両日、大阪市内の府民共済スパアリーナで行われる。全国から選ばれた精鋭52人の一人として、江陵高の平栗弥々（2年）が参加する。十勝からの選出は4年ぶり3人目で、同校からは初めて。ミドルブロッカー（センター）の平栗は「周囲はすごい選手ばかり。学んできたい」と意気込んでいる。（北雅貴）

十勝から3人目

将来の全日本チームや大学、Vリーグのレベルアップ

のための選手育成を目的に、高校生を中心に日本バレーボール協会が毎年実施。過去に2007年に堀

部美紗（当時帯南商高2年）、13年に松田華奈（同1年）が参加している。平栗は足寄町生まれ。小学3年でバレーを始めた。足寄中2年時に帯広選抜として道中学生優秀選手選抜大会準優勝に貢献。同3年ではJOCカップ全国都道府県対抗中学大会の道選抜にも選ばれた。少年団ではセッターを務めていたが、中学生になると身長が147

ほど伸び、セッター兼センターに。管外の強豪校からの誘いもあったが、「地元から全国大会を目指したい」と江陵高に進学した。同校では1年生から試合に出場し、ライトやセンターで活躍。全国切符の懸かった試合を経験するなど着実に成長した。昨年11月の春高バレー道代表決定戦の準決勝で札幌大谷に惜敗した試合が一番印象に残って

いる。「勝てば全国だったのに、自分が決められなかったり、くだらないミスをしてしまった。自分のせいで負けた」と振り返る。悔しさを胸に練習に励み、今では「自分で決めるんだ」と精神面でのたくましさを増した。相手のコートを見て打ったり、考えたプレーもできるようになってきた。福田まどか監督は「ネット際のバランスに優れている。一番良いプレーはブロック」と評価する。全日本ジュニアオールスターに選ばれたことに「自分自身を成長させ、チームのためになるように頑張りたい」と目を輝かせた。

強豪校も多数

今回は全国各地から男女各高校1、2年生48人、中学生4人を選出。各4チームに分けて、2日間で3試合を行う。平栗の入った「STAR」チームの高校生12人のうち、8人が全日本高校選手中権（春高バレー）の出場校。ベスト4の金蘭会（大阪）やベスト8の八王子実践（東京）など強豪校が並ぶ。